



2020年8月20日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 J M C
代 表 者 名 代表取締役社長 渡 邊 大 知
兼 C E O
(コード番号：5704 東証マザーズ)
問 合 せ 先 経営企画室室長 倉 嶋 崇 博
(TEL. 045-477-5751)

〈マザーズ〉投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

記

○開催状況

開催日時 2020年8月20日(木) 10:30~11:30

開催方法 インターネットライブ中継及びオンデマンド配信による開催
ライブ視聴者から文字による質問を受け付け、説明会内で回答を実施

開催場所 ライブ及びオンデマンド配信ページ
<https://vspm.irstreet.com/browse/index.php?code=ca9NTx.W9XfHc&pr=youtube>

説明会資料名 2020年12月期 第2四半期決算説明資料

【添付資料】

2020年12月期 第2四半期決算説明資料

以上



JMC
MADE BY JMC

2020年12月期 第2四半期決算説明会

株式会社 J M C

[証券コード : 5704]

2020. 8.20

© JMC Corporation All Rights Reserved.

1. 2020年12月期 第2四半期 全社業績概要

2. 2020年12月期 第2四半期 事業別業績概要

3. 2020年12月期 下期の取り組み

変化に対応し、新たな強みをつくる

- 内製化の促進
- 教育・人材への投資
- 新サービス・製品の開発着手

2020年12月期通期業績予想について

- ・米中貿易摩擦、消費増税による景気減退・冷え込みに加え、新型コロナウイルス感染症が流行
- ・消費活動の変化、企業の経済活動の停滞で見通し不透明な状況
- ・顧客の開発・試作スケジュールは大幅な変更が発生
 - 輸送用機械部品試作：仕様決定遅れ（約20百万円）
 - 自動車部品試作：発注延期（約32百万円）
 - 航空系部品量産：出図遅延（約30百万円）— 後ろ倒しの一例
- ・全事業領域で当期計画の見直しを実施
- ・足元の受注環境は業種・分野によって一進一退
- ・従業員の雇用確保を最優先に、中長期的な成長戦略の取組みを継続

業績予想の合理的算定が可能となった段階で速やかに開示

当社の全般的な対応状況

- ・現在まで当社従業員および家族の新型コロナウイルス感染報告なし
- ・全拠点で感染対策を徹底したうえで、原則通常稼働を継続
- ・財務基盤安定化のため複数金融機関によるコミットメントライン契約締結
 - 顧客の要求に応える環境を堅持し、需要の戻り局面に万全の備え

事業活動への影響と対策

【影響】

- ・開発スケジュールの相次ぐ変更
- ・受注数量の変動、納期繰り延べ
- ・顧客事業所への入場制限
- ・顧客企業、部署、担当者が出社制限

【対策】

- 顧客内の連携悪化に対し当社が軸となり進捗管理
- 生産計画を柔軟に変更し、変動への追従力強化
- Web・電話を駆使した営業活動を展開
- 仕様決定・評価プロセスまで緊密な連携を維持

単位：百万円	2019年12月期 第2四半期	2020年12月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	1,624	1,077	△547	△33.7%
売上総利益	726	244	△482	△66.3%
売上総利益率	44.7%	22.7%	-	△20.0P
販売費及び一般管理費	416	405	△10	△2.5%
営業利益又は損失	310	△161	△471	△151.9%
営業利益又は損失率	19.1%	△16.3%	-	△35.4P
経常利益又は損失	308	△153	△461	△149.8%
経常利益又は損失率	19.0%	△14.3%	-	△33.3P
四半期純利益又は損失	207	△114	△322	△155.3%

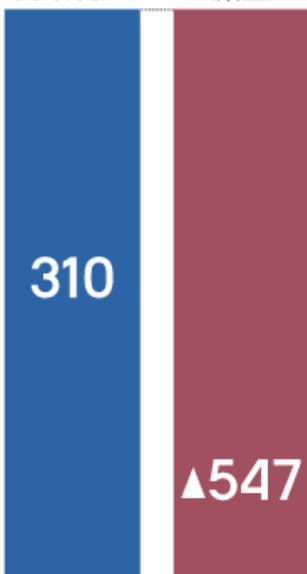
3Dプリンター出力事業の一部やCT事業は堅調に推移したものの、試作・開発スケジュールの相次ぐ遅延が生じた鑄造事業での減少幅を賄いきれない結果となった。

売上原価

販売管理費

増加 ■
減少 ■

前2Q 売上減による
営業利益 減益



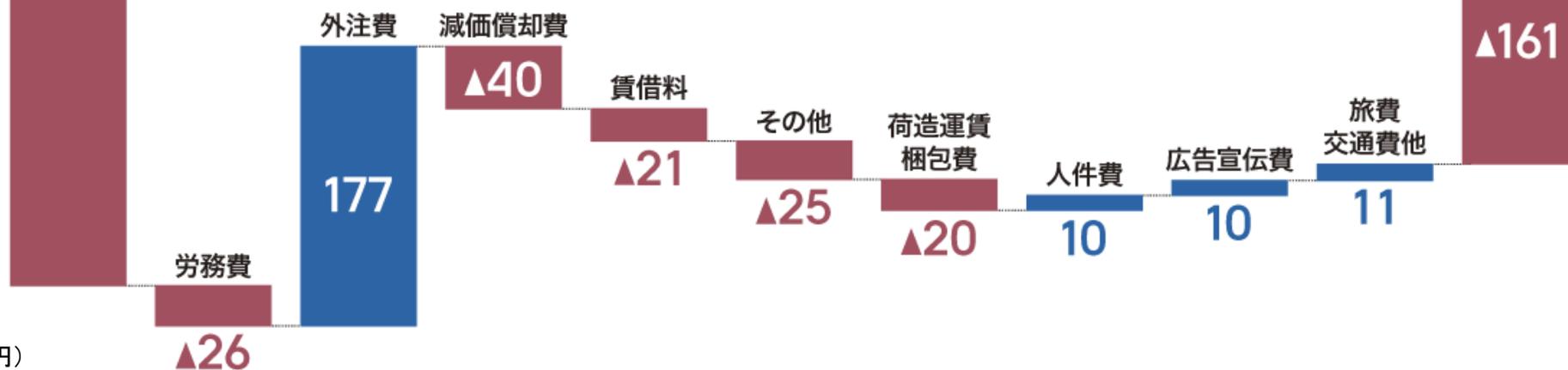
売上原価

- 売上の減少・内製化推進により外注加工費は大幅に減少
- ミーリングセンター稼働で減価償却費増

販売費及び一般管理費

- 各種展示会の開催延期・中止により、広告宣伝費は減少
- 往来制限による営業活動鈍化により、旅費交通費、人件費の減少
- ミーリングセンター開設準備により、荷造運賃は増加

当2Q
営業損失



(単位：百万円)

単位：百万円	2019年12月期	2020年12月期 第2四半期	増減額	増減率
流動資産	1,009	1,066	57	5.7%
固定資産	2,672	2,699	26	1.0%
資産合計	3,682	3,766	83	2.3%
流動負債	522	699	176	33.8%
固定負債	905	922	17	1.9%
負債合計	1,427	1,622	194	13.6%
純資産合計	2,254	2,144	△110	△4.9%
自己資本比率	61.2%	56.9%		

【資産】 量産案件着手に伴い仕掛品が増加
【純資産】 四半期損失の計上により減少

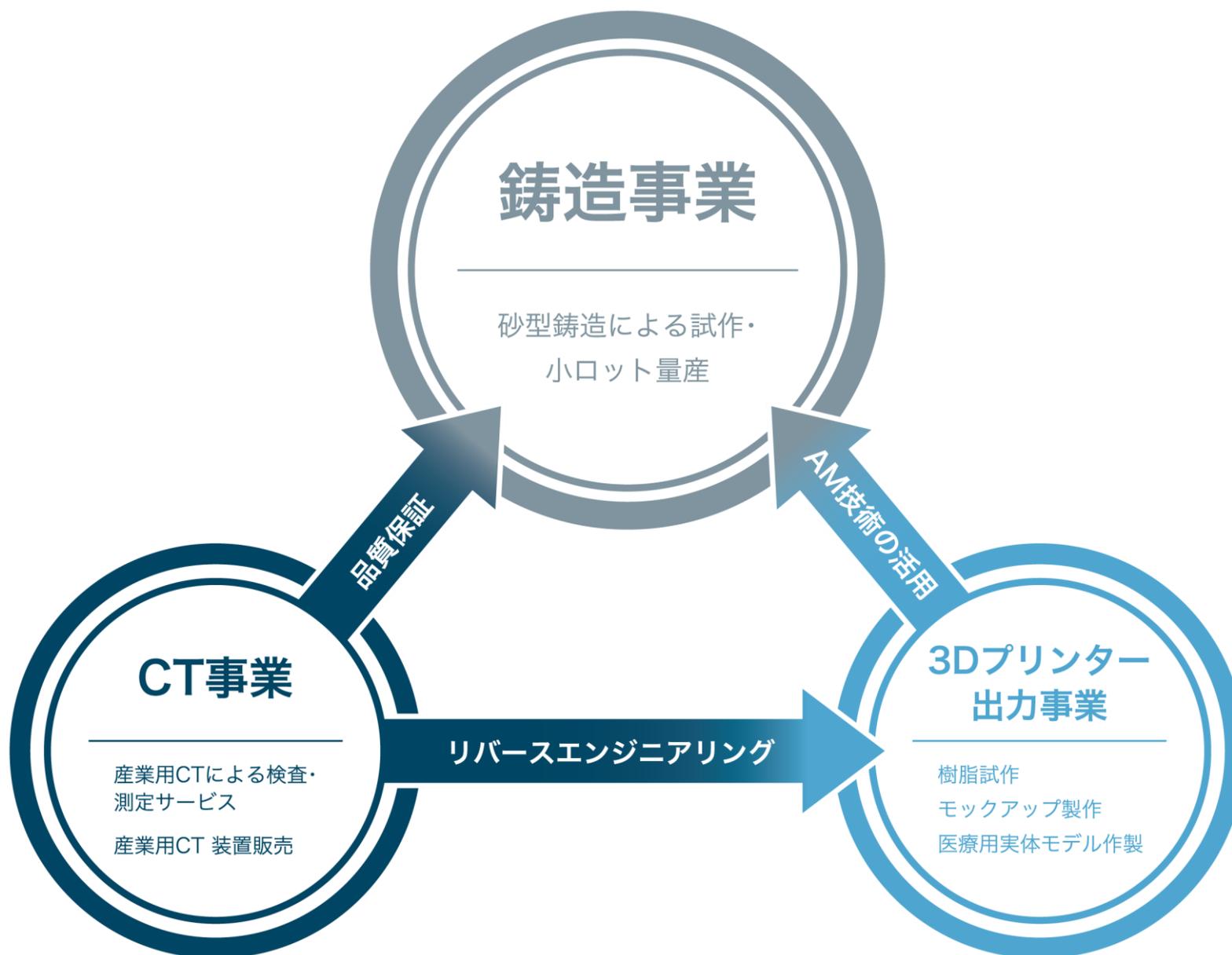
【負債】 運転資金を調達し、短期借入金が増加
【自己資本比率】 安定した財務基盤を堅持

キャッシュ・フロー計算書 サマリー

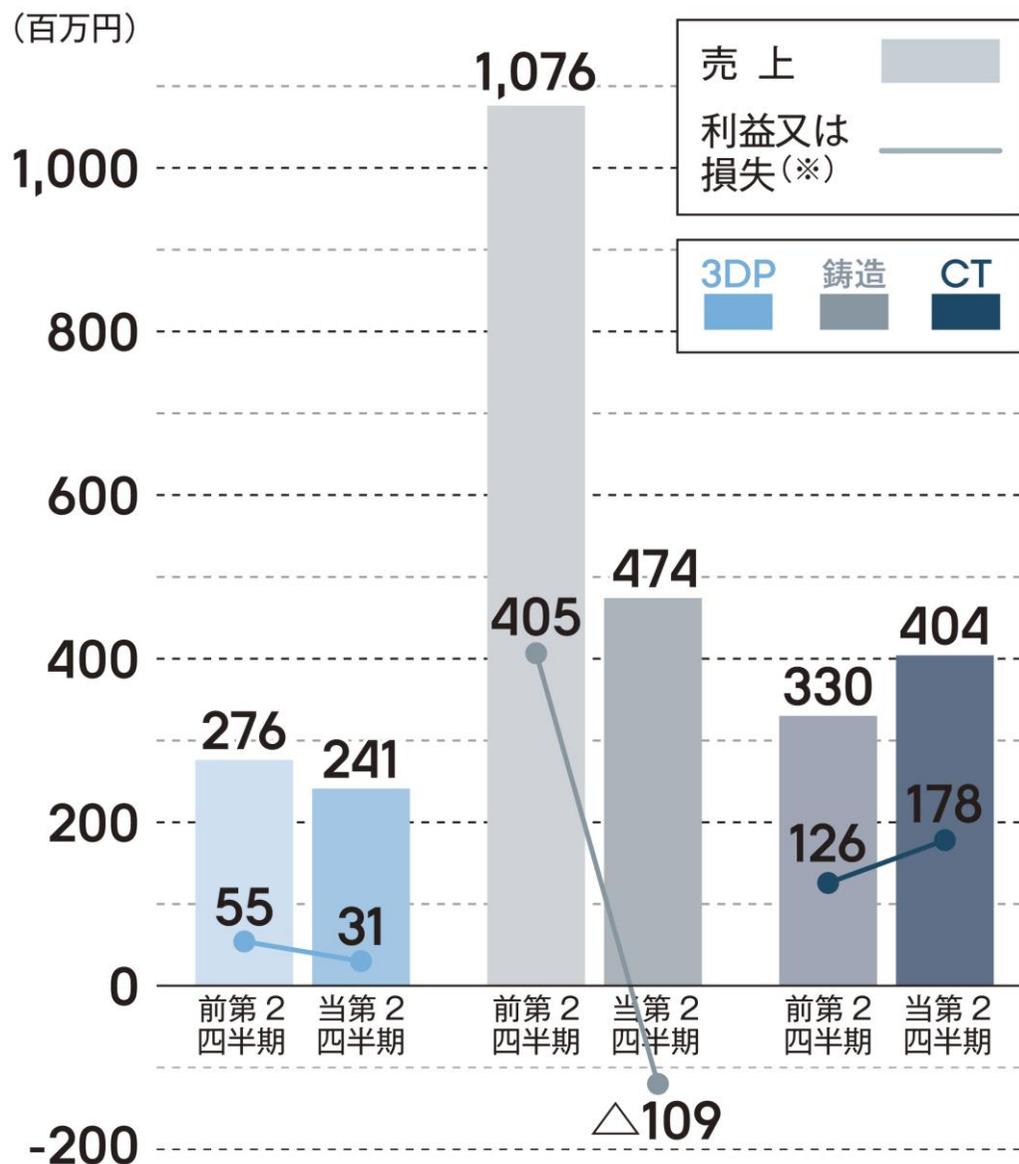
単位：百万円	2019年12月期 第2四半期	2020年12月期 第2四半期	増減額	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	254	△34	△ 272	△ 113.6%
固定資産の取得による支出	△ 524	△ 161	363	69.3%
その他	△ 2	0	2	105.4%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 527	△ 160	366	69.5%
短期借入金の純増減額（△は減少）	△ 105	100	205	194.4%
長期借入れによる収入	300	64	△ 236	△ 78.7%
長期借入金の返済による支出	△ 11	△ 57	△ 46	△ 420.4%
セール・アンド・リースバックによる収入	—	88	88	—
リース債務の返済による支出	△ 48	△ 59	△ 11	△ 24.4%
その他	11	△ 0	△ 12	△ 106.9%
財務活動によるキャッシュ・フロー	146	133	△ 13	△ 8.9%
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 126	△ 62	64	50.8%
現金及び現金同等物の期首残高	1,007	298	△ 708	△ 70.4%
現金及び現金同等物の期末残高	880	236	△ 644	△ 73.2%

固定資産の取得による支出は大きく減少
財務活動によるキャッシュ・フローは前年水準を維持

1. 2020年12月期 第2四半期 全社業績概要
- 2. 2020年12月期 第2四半期 事業別業績概要**
3. 2020年12月期 下期の取り組み



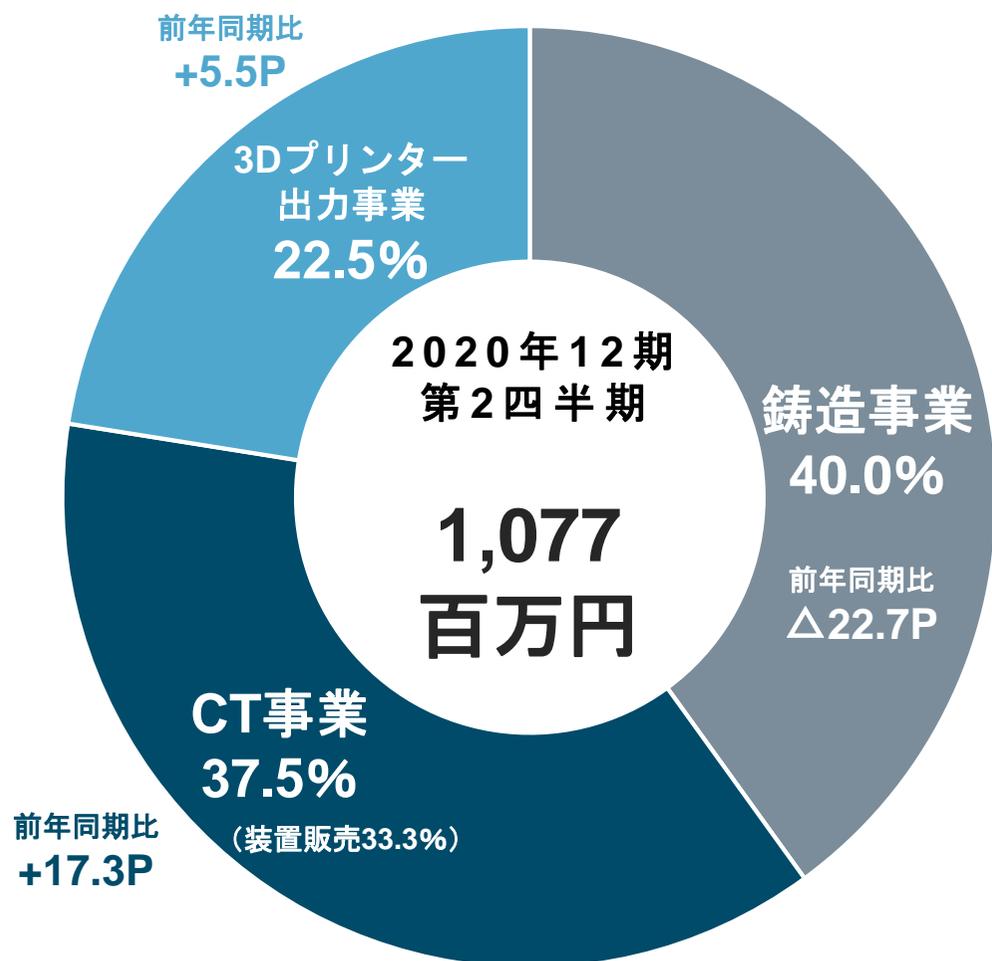
単位：百万円	売上高				セグメント利益又は損失			
	2019年12月期 第2四半期	2020年12月期 第2四半期	増減額	増減率	2019年12月期 第2四半期	2020年12月期 第2四半期	増減額	増減率
3D プリンター 出力事業	276	241	△34	△12.5%	55	31	△23	△42.7%
鋳造事業	1,076	474	△601	△55.9%	405	△109	△515	△127.1%
CT事業 カッコ内は 装置販売	330 (93)	404 (134)	74	22.5%	126	178	52	41.2%
その他	△57	△43	14	24.8%	△276	△261	14	△5.4%
四半期 損益計算書 計上額	1,624	1,077	△547	△33.7%	310	△161	△471	△151.9%



(※)一般管理費控除前のセグメント利益又は損失

外部環境

- 3Dプリンタ出力需要は顧客の試作・開発のスケジュール停滞で後半(4月~6月)減速。HEARTROID(ハートロイド)事業は好調に推移
- 多くの顧客で開発予算の削減・日程延期が相次ぐ
- CT撮像認知度の広がりを受け、底堅い需要が継続

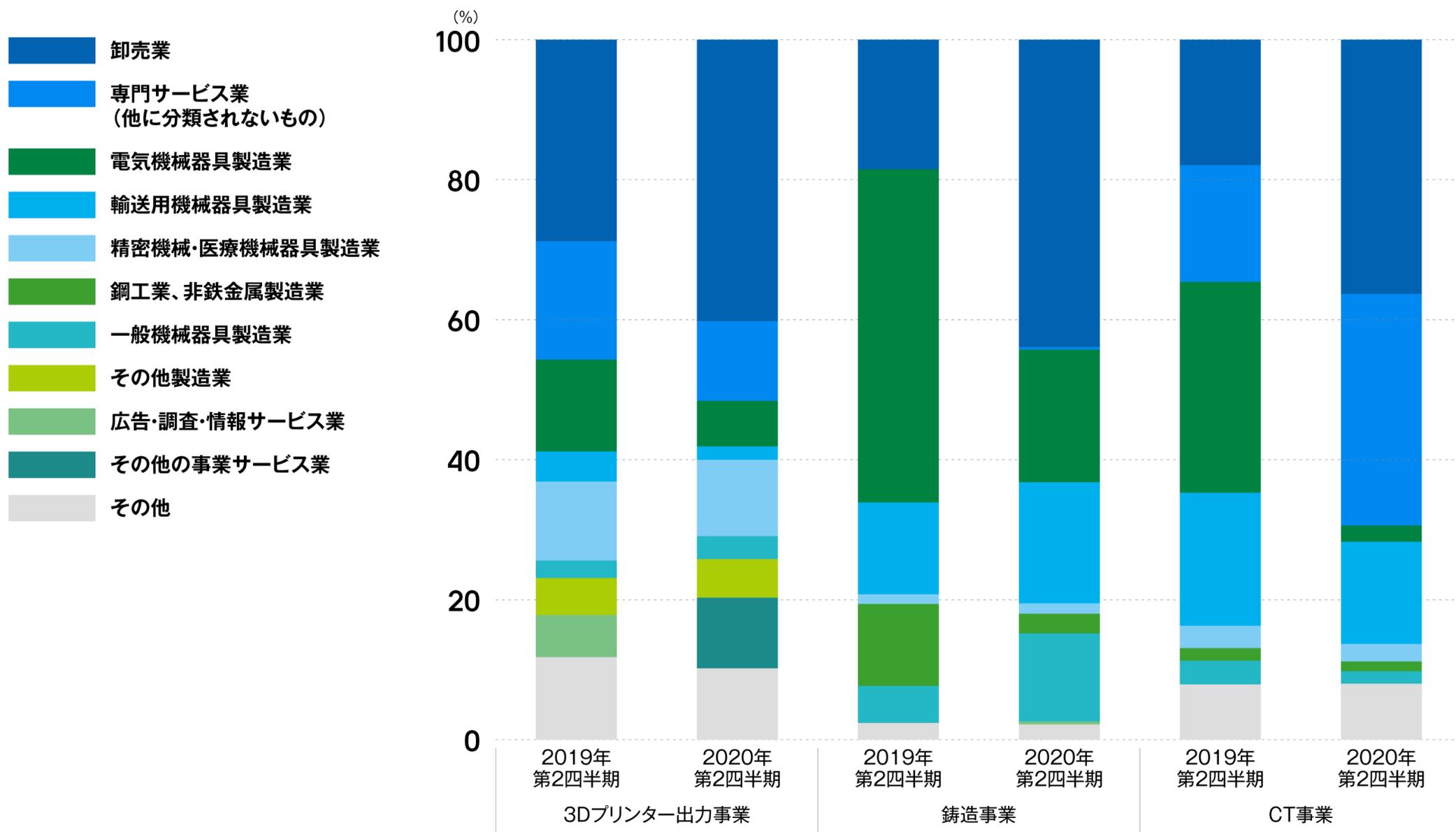


（注）外部顧客への売上高の比率

事業別概況

- 試作需要は医療関係では堅調だが、自動車産業の顧客を中心に停滞
HEARTROID（ハートロイド）事業は海外デバイスメーカーからの引き合い、需要が好調
- 主要顧客の自動車産業は先行開発や競合他社の調査研究が大幅減少
既存技術の開発も一部にとどまる
- WEBセミナーの継続開催や「CT生物図鑑」による知名度向上が寄与し、新規顧客・問い合わせが増加

産業別売上高比率



【鋳造事業】昨年比では自動車分野(卸売業)比率が増加

【CT事業】内燃機関を中心とした不具合解析、安全検査に関わる撮像案件が増加

1. 2020年12月期 第2四半期 全社業績概要
2. 2020年12月期 第2四半期 事業別業績概要
- 3. 2020年12月期 下期の取り組み**

ミーリングセンター（静岡県浜松市）の稼働強化



JMC
MADE BY JMC

DMG MORI

1. DMG森精機製 中型汎用加工機 CMX 1100V（2020年7月導入）
 2. DMG森精機製 大型5軸加工機 DMU 65 monoBLOCK（同11月導入予定）
- 既設の DMC 80U duoBLOCK 2台など、合計10台のマシニングセンタを擁し、少量量産に即応可能な工場へと進化
 - DMG森精機の創立70周年記念事業に賛同し、5軸加工プライベートレッスン会場として機能することで、当社未接触の顧客・関係者との新規商談にも期待
 - 5軸加工機による加工工数削減により、加工ボリュームの増加につなげる

量産品、高付加価値品への取り組みを強化し、
内製率の向上によるQ・C・Dのレベルアップを目指す

Additive Manufacturing サービス提供開始

JMC
MADE BY JMC



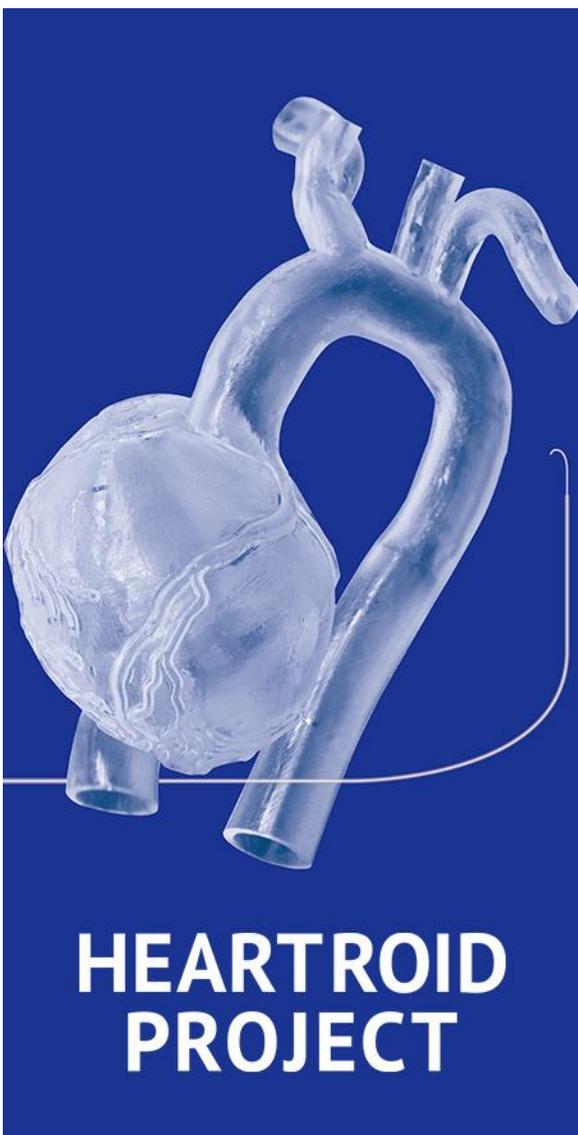
顧客の様々な利益に貢献できる新しい製造工法の提案を開始

- 新たな方法による製品設計 …… 切削、成形から、積層へ
- 開発リードタイムの短縮 …… デザインから製品化までダイレクトに実施
- 製造コスト削減 …… 部品複合化、金型製作の省略

製品の設計開発・試作・製造に加え、装置の導入コンサルティング、トレーニングの実施体制を完備

3Dプリンタ出力事業は試作中心から、大型品・量産品
対応を強化し、新規顧客への浸透を進める





HEARTROID PROJECT (ハートロイドプロジェクト) マサチューセッツ工科大学と共同プロジェクト開始



- マサチューセッツ工科大学(以下:MIT) TTDD(Therapeutic Technology Design&Development)Labで、植え込み型医療機器の臨床試験・要素研究用に「HEARTROID」の採用が決定
- MIT TTDD Labとクリエイティブパートナーシップを締結し、2020年8月より研究開発サポートを開始
- TTDD Labと定期的な意見交換会を開催し、研究成果はMITの研究論文および出版物に掲載予定

心臓疾患による死亡が常に死因の上位の米国で
HEARTROIDが解決策の1つとなるよう研究をサポート



CT撮像・装置販売の拡大

JMC
MADE BY JMC

Baker Hughes™

(※)

- 非破壊検査・リバースエンジニアリング目的の撮像依頼が増加
- CT生物図鑑に掲載の「オオサンショウウオ CT画像」をきっかけに、官公庁・教育機関等からの問合せ、メディアでの紹介が増加
- 一部大手企業では品質担保目的でCT装置導入検討が進行中
導入手続き・撮像技術指導を当社で実施(上期1台・下期2台予定)
- ウェブセミナーを通じ、保有設備紹介、CT撮像の可能性訴求を継続

今後も撮像、装置導入ともに高いニーズを維持する見通し

(※)旧:GEセンシング&インスペクション・テクノロジーズ株式会社



製造品質強化のための 継続的な投資、人材育成

- 鋳造品質の向上とモノづくり意識の改革を牽引
「ハード」 SEM(走査電子顕微鏡)の導入
「ソフト」 大手メーカー出身の基幹人材を採用
- アルミニウムに関するコンサルティング指導を仰ぎ、鋳造事業に従事するメンバーの品質スキル強化と専門知識レベル向上を推進
- 各種教育施設との情報交換、研究素材供与など相互交流を通じて自社技術スキルの向上と将来人材の育成に貢献
- 従業員雇用維持はもちろん、人材の積極的な確保・育成を通じ、活力ある組織づくりを継続的に実施

量産品案件の増加を見据え、更なる品質体制の強化



オンラインでの販促活動・ 知名度向上の推進

- 営業活動のリモート化（顧客状況への柔軟な対応）
- CTスキャン、AMIに関する技術セミナーの開催
（CT事業での開催実績：6月88名、7月120名） ※事前登録者数
- HEARTROID オンラインハンズオンの開催
（自社撮影・編集可能な設備機材を準備し、提携商社にも開放）
- WEBサイトによる集客の強化
（サービスサイトリニューアル、コンテンツの充実化）
- YOUTUBEコンテンツ“JMC BASE”を開設
当社の『モノづくり』について幅広いチャンネルに訴求

Appendix



- [会社名] 株式会社JMC
- [本社所在地] 1992年12月
- [資本金] 782,671千円
- [上場市場] 東京証券取引所マザーズ (5704)
- [従業員数] 147名
- [代表者] 代表取締役社長兼 CEO 渡邊 大知
- [本社所在地] 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目5番5号

ホームページのご案内



当社ホームページでは決算情報・プレスリリースのほか、各事業の詳しい内容を発信しています。



www.jmc-rp.co.jp



コンセプトセンター

長野県飯田市
鑄造事業、CT 事業



テクニカルセンター

神奈川県横浜市都筑区
3D プリンター出力事業



本社

神奈川県横浜市港北区
3D プリンター出力事業
CT 事業



ミーリングセンター

静岡県浜松市浜北区
鑄造事業



AMセンター

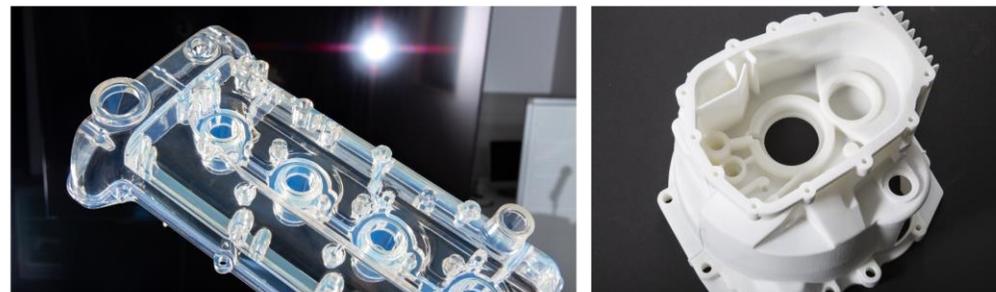
神奈川県横浜市港北区
3D プリンター出力事業





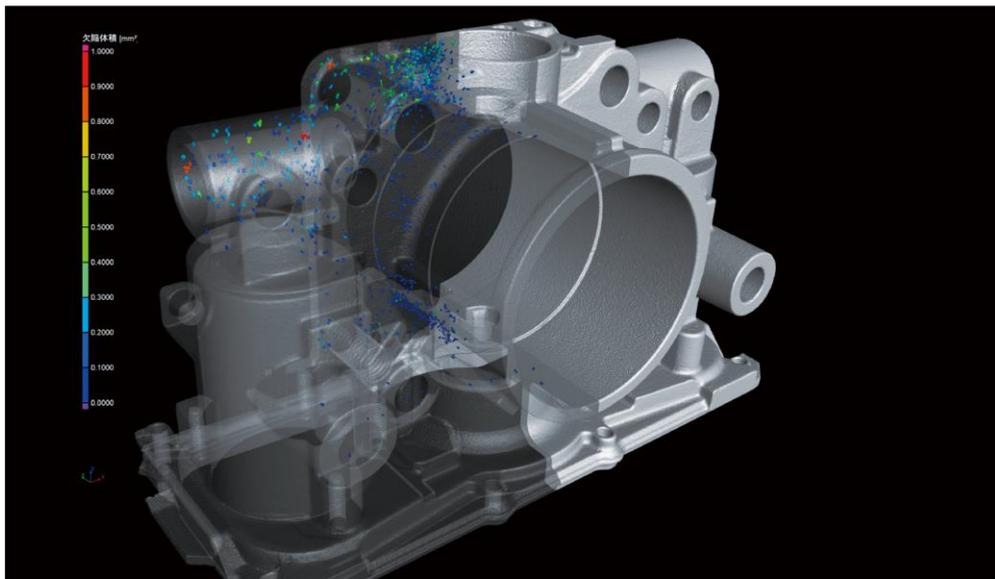
鑄造事業

精密砂型鑄造による試作、小ロット量産を行っています。柔軟な材料対応力と、社内一貫生産による短納期対応、産業用CTを始めとする最新機器による高度な品質保証を特徴としています。



3Dプリンター出力事業

工業部品の試作やモックアップを3Dプリンターで製作するサービスを行っています。豊富なキャパシティで短納期化を実現します。また、2020年7月より3Dプリンターによる樹脂製品の量産サービスを開始しました。



CT事業

産業用CTスキャナを使用した三次元測定サービスを行っています。産業用CTは他の測定方法に比べ、複雑形状や複合部品のスキャンを得意としており、幅広い分野で活躍しています。



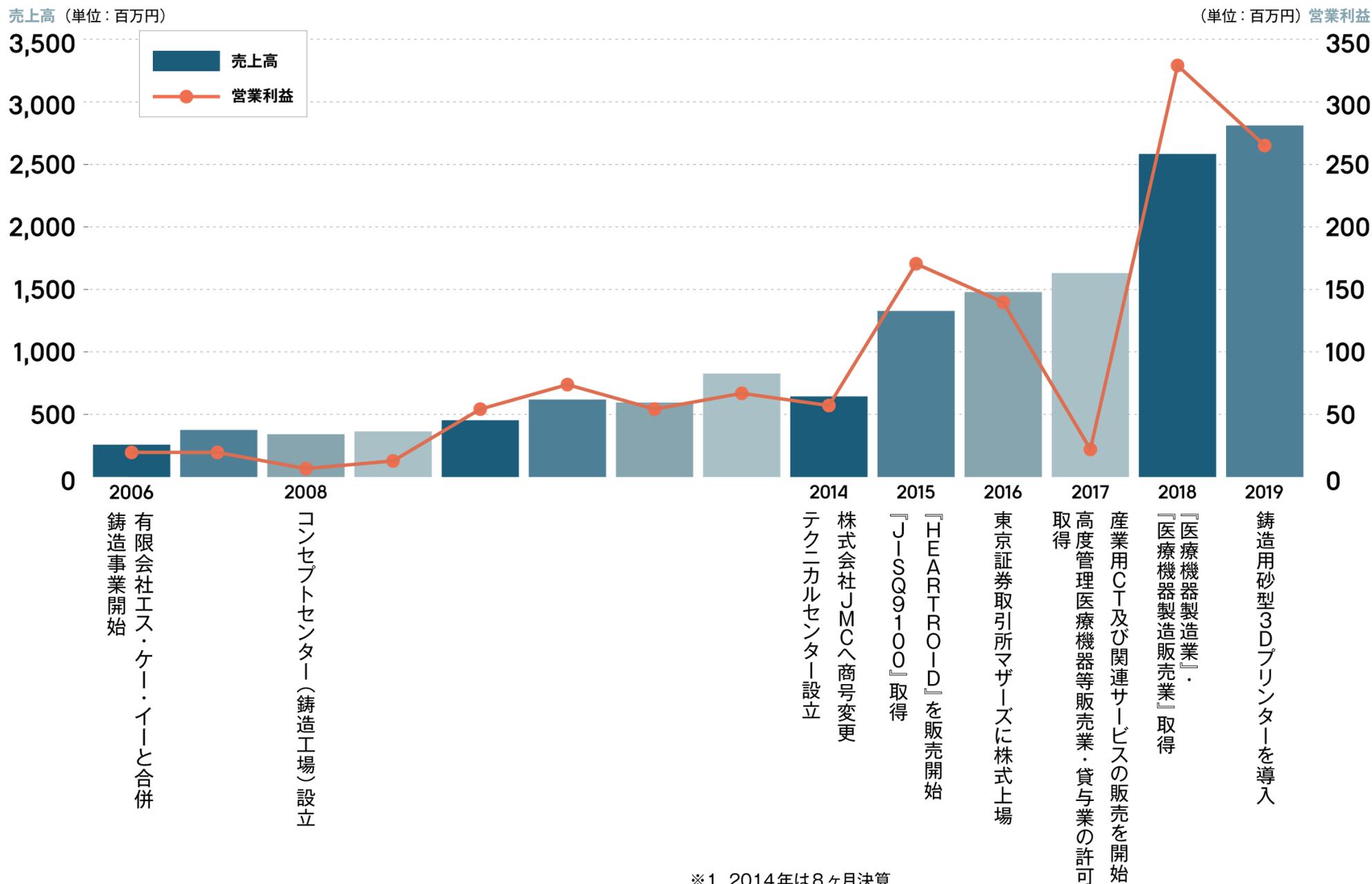
メディカル

3Dプリンター技術を活用したオーダーメイド医療用模型の作製に加え、2018年より医療機器販売を開始し、次世代ギプス『OPENCAST』の販売を行っています。



HEARTROID (ハートロイド)

大阪大学、フヨー株式会社と共同開発した心臓カテーテル治療のトレーニングシステムです。3Dプリンターで再現された透明な心臓と拍動ポンプを使うことで、実践的でハイレベルなシミュレーションが可能になります。



※1 2014年は8ヶ月決算

本説明会および説明資料の内容は、発表日時点で入手可能な情報や判断に基づくものです。

将来発生する事象等により内容に変更が生じた場合も、当社が更新や変更の義務を負うものではありません。

また、本説明会および説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、多分に不確定な要素を含んでいるため、実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なる場合がありますことをご了承ください。

本資料中に記載されているロゴ・会社（機関）名・製品名は、各社（機関）の登録商標または商標です。

◆本件に関するご連絡先◆

株式会社 J M C 経営企画室

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目 5 番 5 号

電話番号 : 045-477-5751 E-mail : ir@jmc-rp.co.jp